

兎に角本書は近來の好著述で其立派の体裁からい
つて、各自の家庭に備へて、娛樂にしても宜しい
と思ふ。

日本の家庭

「日本の家庭」と題する日刊雑誌、来る十日、書肆同文館より發
刊せらるべしと。我が國固有の善良優美なる家風を基礎として、
時勢の進歩に適應する所の健全なる家庭を理想とし、實際的にし
て且つ趣味あるものたらしめんとする主義なりと云ふ。殊に目下
の重要問題たる家庭教育に至りては、發行所獨特の長所として、
大に力を盡すといへば、定めて有益なるものを現出すべく、一般
家庭の好讀みものたるべし。定價は一部八錢なりと。詳しくは出
た上で、御紹介致すべし。



在暹羅河野嬢よりの書面

五十六

客年十月、暹羅國河原清子嬢より黒田教授に宛てたる書狀に由るに全嬢近來の消息は次の如し。

(前略) さて、私も俄に遠方に参りまして、まるで井戸の蛙が飛び出したと一向變らないので、随分困りますけれども、旅行上から出来た種々の經驗を得ました事々は、感謝致さねばなりません。夢にも見ようとは思はなかつた土地を見る事も出来、知り人もふえて参りましたから、まづ身に取つては幸福が一つありましたのでありませうか、とは申せ、月あかき夜には舊校の松か枝にかゝりし月を思ひ、暗夜道を照らす電光を見ては、お茶の水橋前の白光を思ひ出し、日として昔を憶ばぬ事はございませぬ。此境界に始終心身をなやまして居

る私は、やはり幸福でございませうか、噫
 當地は全くの平野でございまして、東京よりもま
 だ甚しい、坂一つ見る事さへ出来ませぬ。従つて
 よき景色もございませぬ。しかし、幾分かメナム
 河が景色を添へて居る丈でございしますが、これも
 濁つた水を見ては、其景色の十分の九は減じられ
 ます。朝から夕方までは炎暑と闘ひましても、こ
 れを慰むる場所がございませぬ。たゞ一週に一回
 位、人家少き所へドライブに出掛くる位が、最上
 の樂でございしますのは、人としては随分不愉快な
 暮し方ではございしますまいか、遊ぶべき博物館、
 圖書館などもあると申す事でありますが、しかし
 まだ折がなくて參られませぬ。參つた所で、盲目
 の私には、其外面位は見て參られませうが、之で
 自分の知識を高むるとか、修養を致す事は出来な

いと思ひますから、寧ろ家に居て讀書致す事が、
 一番の得策でせうと考へまして、なるべく之を力
 めたいと思ひますが、根氣のつかないには、自
 分ながらわかれてしまひます。考へ事なども、當
 地では決して出来ないと、私共は口を揃へて申し
 ますが、どうしても時候の具合が、大變に影響し
 た居る事でございませう。此節はよほど凌ぎ易く
 なりましたから、夜半などは随分勉強は出来る筈
 でございしますけれど、やはりつかれがたまひ、
 眼氣を催しますから、寝て仕舞ふといふ風になり
 ます。東京では七時間やすめば身體の勞れが恢復
 しますが、當地では八時間以上休まねば、次の日
 はねむくてたまりませぬ。そこで、毎日一時間以
 上の損をして居ます。此の償を致す折は、私には
 どうしても見付かりませぬ。そこで、毎日自分の

心掛け丈(ただ)けで、極僅(きりつ)ではあります(が)、今日(こんにち)は先づ
 之(これ)丈(ただ)け得(え)たといふ愉快(ゆいわい)をいつてやすみます。これ
 が重(かさ)なればちりも積(つ)れば山(やま)となると全様(ぜんよう)でござい
 ませうと、實(じつ)にかすかな光明(くわんめう)で、毎日(まいにち)を暮(くら)して居
 ます。時々(ときどき)は先生(せんせい)のお戒(かい)めを承(うけたま)はり、御教(おんを)を受(う)け
 る事(こと)が出来(でき)れば、どんなにうれいしでございませ
 う。

學校(がくかう)は、只今(ただいま)では大變(たひん)に面白(おもしろ)くなつた様(よう)でござい
 ます。生徒數(せいとすう)は本日(ほんじつ)にて、五十七人(ごじゅうしちにん)詐(は)りとなり、
 開校(かいがう)日(ひ)僅(わづ)かにして、生徒數(せいとすう)の割(わり)合(あひ)に多いといふ點(てん)
 は、誰(たれ)も驚(おどろ)いて居(ゐ)る位(くらい)であります。當(たう)地(ち)で、
 十四年(じゅうしにんねん)間(かん)開(ひら)いて居(ゐ)る米(べい)國(こく)人(じん)の學(がく)校(こう)生(せい)徒(と)は、八十人(はっぴん)
 ございますとの事(こと)で、概(たいてい)は六十人(にじゅうにん)位(くらい)でございま
 すから、こんな感(かん)じが起(お)るのでございませうが、
 日本(にほん)の事(こと)を思(おも)ひますと、可(か)笑(か)しく感(かん)じます。

皇后(くわうごう)陛(れい)下(げ)も、非(ひ)常(じょう)に當(たう)校(こう)の事(こと)につきて御喜(およろこ)びの御
 樣(よう)子(す)にて、しばしありがたき御口傳(ごこうでん)をいたゞき
 ました。先達(せんたつ)も「學(がく)校(こう)舎(しゃ)がよくないから、よい處
 を心配(しんぱい)する、よい處(ところ)に參(まゐ)れば、教(け)師(し)も幸福(かうふく)であら
 ふから」といふ思(おぼ)し召(め)しで、よい處(ところ)を御(お)さ(が)し下(くだ)
 さいまして、十二日(じふににち)には轉校(てんかう)致(いた)す様(よう)、ほゞ定(さだ)まり
 ました。國(くに)は違(ちが)つても、生徒(せいと)はやつぱり生徒(せいと)で
 さいましてどこまでも、可(か)愛(あい)うございます、最(さい)初(しよ)
 は言葉(ことば)も通(つう)じませぬし、國(くに)の變(かわ)つてゐる處(ところ)から、
 御互(おたがひ)の情(じやう)を知(し)ることも六(む)ヶ(け)しくございしましたが、
 此節(このせう)では餘程(よほど)よくなれて參(まゐ)りまして、校(がう)内(ない)は愛(あい)を
 以(もつ)て充(み)たされて居(ゐ)る様(よう)に感(かん)じます。先(せん)日(じつ)も私(わたし)は子
 供(こども)と遊(あそ)んで居(ゐ)ました。不(よ)圖(と)いつもの想(まう)像(じやう)に心(こころ)をう
 つされまして、「御代(みよ)のめぐみとふみまよう」と初(しよ)
 句(く)にあるうたをうたひましたら、生徒(せいと)は耳(みみ)をすま

せて、きいて居ました。が、やがて、「先生夫は何の歌でございますか」と申しますので、「これは先生にお別れいたす時の歌です」と答へますと、「毎日少しづつ、覚えませすれば、きつと出来ませうから、どうぞ教へて頂戴、それから、先生御歸國遊ばす時には、うたひます、どうぞ、其意味を翻譯して下さいます」との事で、私は閉口致しましたけれども、先二小節丈は難なく歌ひうる様になりました。

先日、東京に留學して居る暹羅の小供の刺繡や造花や圖書が参りましたので、陛下から早速當校へおもとせ下さいました。陛下も非常にお喜でございましてと申す事でございまして。貴族社會では陛下が教育に御力を注がせ玉ふ事が、一大話にありましてゐますとの事でございまして。まづ當國

の爲め大賀いたすべき事と思ひます。(下略)

十月十六日夜

九州地方の狀況

久保やま子

唯今迄は餘りくだらぬと存、差扣へて居りましたが、都の御方に邊陲僻地の生活の有様を申しますのも、或は御参考の一助かとも存ますから、申上ます、都と邊陲の様を比へますと、都の中以下の生活の様は田舎の上の品より上等です。御笑ひ草迄に食物の事から申上ましよう、四國西南岸の地(東南は調)是れに對する九州海岸、即ち豊後と延て日、隅、薩の一帶海濱の地は、先づ甘薯が唯一の食物です、山間に入りますと粟、玉蜀黍を用ゐます(麥は申す)調理の致し方は種々ですが、蒸し